

第50回広島県知的障害者福祉大会 三原・竹原大会 第23回はつらつ大会（本人大会） 三原・竹原大会

第 124 号

育成会 会報

令和7年度版

発行所

一般社団法人
広島県手をつなぐ育成会

広島市西区打越町17-27

育成会総合福祉センター内

TEL (082)537-1773

FAX (082)225-7555

編集責任 金子麻由美

お互いをより深く知り合えた大会

大会会長

(広島県手をつなぐ育成会会長)

金子 麻由美



この度は、第50回広島県知的障害者福祉大会ならびに、第23回はつらつ大会（本人大会）が、あすなる太鼓で威勢よく始まり、「明日に向かってひろげよう」をテーマに、多くの皆様のご参加とご協力のもと、来賓やボランティア、スタッフ等を合わせて578名の参加を得て、盛会のうちに終了いたしました。心より感謝と御礼を申し上げます。記念すべき第50回の節目となった一般大会は、大会主題「ライフステージを豊かに生きるために」のもと、トークや座談会から参加者に多くの学びと示唆を与えてくださいました。また、子どもの頃か

らの切れ目のない、継続した支援の重要性を改めて認識することができました。

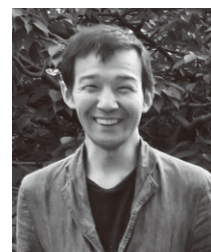
「自分の思いを伝えるために」をテーマに開催されたはつらつ大会では、参加者同士が交流を深めることを通して、どの分科会も楽しく、大変充実した時間となりました。本人が主役となり、自身の思いを発信し、共有しあえる場が持てたことは、大きな成果です。

今年度は、久しぶりに一般大会とはつらつ大会の開会式・閉会式を合同で開催いたしました。閉会式において大会決議文と一緒に発表したことにより、一般参加者と本人参加者が互いをより深く知り合うことができ、両大会が一体となる意義深い機会となったと思います。

今回の両大会を通じて得られた貴重な意見や熱意を大切に、私たち一人一人が、誰もが地域で安心して、豊かな暮らしができる社会を目指し、活動を継続してまいります。

第23回はつらつ大会（本人大会）三原・竹原大会を振り返って

はつらつ大会会長 河野 靖範



今回ののはつらつ大会三原・竹原大会の開会式・閉会式は一般大会と合同で行われ、多くの参加者、来賓の方に参加していただきました。親の参加人数よりも僕たち本人の参加人数が多く、一緒にすることで会場が盛り上がったのではないのでしょうか。

今回ののはつらつ大会は、3つの分科会に分かれて行いました。第1分科会は「行政との話し合い」「グループワーク」、第2分科会は「三原やっさ踊り」「やっさだるマン、かぐやパンダとの交流」、第3分科会は「竹原まちなみ観光」に行きました。

第1分科会では、午前中「行政との話し合い」が行われました。事前に用意した質問にわかりやすく答えていただけたと思います。会場からの質問にも丁寧に回答してもらえました。ただ、全て納得できるものではありませんので、これからも行政と様々な話ができる場があればと思います。午後の「グループワーク」では、グループに分かれて、自分の余暇のことやこれからしたいこと、今の自分についてや将来の自分について話し合いをしました。各グループでは、色々な意見が出て大変盛り上がりしました。特に「恋愛や結婚」の単語が出ると会場全体が大きく盛り上がったと思います。お昼のお弁当も「美味しかった」と好評でした。

第2分科会では、午前中は「三原やっさ踊り」を楽しみました。「やっさやっさ」のかけ声で、みんな楽しく踊ることができ、踊る姿もユーモラスで笑顔になる時間となりました。午後からは、色々なアトラクションがあり、ゲームを楽しみながら、やっさだるマンとかぐやパンダとの交流を楽しめました。

第3分科会の「竹原まちなみ観光」では、グループに分かれ、ガイドもついてくれて、普段なら通り過ぎてしまうような場所も観光でき、知ることができたそうです。食事もおいしく、その後の交流会もみんな笑顔で楽しく過ごせたそうです。

それぞれの分科会で、みんながけがもなく楽しめたのではないのでしょうか。

閉会式の決議文発表では、全員が大きな声で発表できていて良かったと思います。

来年の福山大会でもみんなが元気で会えたらと思います。

第50回広島県知的障害者福祉大会 第23回はつらつ大会三原・竹原大会を終えて

大会実行委員長 岡田 雄幸

この大会の第1回大会は、広島県精神薄弱者福祉大会という名称で、昭和50（1975）年11月30日に開催されました。以後半世紀もの歴史を積み重ね、その記念すべき50回大会を、ここ三原市で開催できたことを光榮に思います。この大会を盛大に開催したいという私たちの思いが、第1回大会の先達に繋がったような気がいたします。

今大会では、一般大会と、はつらつ大会の開会式並びに閉会式を合同で行いました。閉会式において、大会決議を一緒に行えたことも大変良かったと思っております。

「明日に向かってひろげよう！」をメインテーマに開催した一般大会でした。公益財団法人日本ダウン症協会理事の水戸川真由美様と若者活動スペースちゃんくす代表西上忠臣様とのトークでは、あらゆる垣根を越えて人々がつながることや心のボーダーをなくし、対話を重ねることを学ばせていただきました。

午後の座談会では、3名の親御さんのこれまでの実体験をお聞きました。これを受けて、三原市保健福祉部長藤井宏道様、RABBIION代表の高原伸幸様からは、多くのご示唆をいただきました。最後にコディネーターを努めていただいた水戸川真由美様から、ライフステージを通じた切れ目のない支援システムが必要で、親ではない第三者との「斜めの関係」を築くことなどをご教授いただきました。

本大会の開催に向け、多くの皆様にご尽力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

ますますの成長に向けて

大会実行副委員長 高下 美智江

今大会は「明日に向かってひろげよう！」をメインテーマに委員会を立ち上げ、大会の準備をしてまいりました。平素から地域の課題やこれからの障害者を取り巻く法整備などについて地域で活動している方に準備委員会の委員として協力を仰ぎました。現地運営委員会には、行政、事業所、ボランティアグループなど多くの方々の手を挙げてくださり大変心強く思いました。実行委員会には、様々な立場の方にお願ひし適切なご意見をお聞かせいただきました。そして、協賛広告として、地域の皆様より大変多くの後押しをしてくださいました。こうした皆様のお陰で、「楽しく頑張る」をモットーに各委員が一致団結して取り組んで大会を開催することができました。

はつらつ大会は、一般大会と合同の開会式・閉会式で、来賓の皆様や多くの方々との前でのあいさつなど緊張することも多かったようですが、さすがに回数を重ねること23回目の本人大会です、堂々とした態度が今後も24回・25回と続く大会であり続けることが皆様に伝わったのではないのでしょうか。本人活動の「はつらつ友の会代表者会」では、活動の様子をパネル展示で紹介をしたり、受付や司会、参加者のお見送りをしたりするなど、「自分でできることを自分で考えて行動する」を実践できていたと思います。これからも、経験を積み達成感をもつて過ごしていけるように皆様にもご協力いただきながら地域で過ごしていきたいと思っています。本人の皆様の益々の成長に向け、今後ともご支援をよろしく願ひいたします。



広島県知的障害者福祉大会第50回記念祝賀会

「広島県知的障害者福祉大会」の前身が、「広島県精神薄弱者福祉大会」です。第1回広島県精神薄弱者福祉大会が、広島市立宇品東小学校において開催されたのは、昭和50（1975）年11月30日です。第50回を迎えました広島県知的障害者福祉大会が、第1回大会と開催日が同じ令和7（2025）年11月30日でした。偶然ではなく、本大会の歴史の繋がりを感じます。さらに、この大会が充実・発展するよう取り組んでまいりましょう。

第50回記念祝賀会は、同日、三原国際ホテルにおきまして、ご来賓の皆様をはじめ55名のご参加をいただき、盛大に開催することができました。厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。



顧問・副島宏克 想いを語る

第50回広島県知的障害者福祉大会 三原・竹原大会決議

本日、私たちは、三原市と竹原市の育成会が共催した第50回広島県知的障害者福祉大会において、知的・発達に障害のある方が安心して暮らせる社会の実現について考えました。

この50年、多くの先人たちの努力と行動によって、障害のある方の暮らしが向上し、権利の獲得が進められてきました。しかし今なお、偏見や差別、制度の壁、社会参加への制限など、多くの課題が残されています。

私たちは、知的障害者の一人ひとりが、地域の中で尊厳をもって生活し、学び、働き、社会の一員として認められ、互いに支え合う共生社会の実現を目指します。今大会のテーマである「明日に向かってひろげよう！」は、障害のある方が、地域で豊かに生活できる共生社会の実現に向けた呼びかけです。

障害のある方が、安心して生き生きと暮らすことのできる環境や地域づくり、制度の充実を皆様と一緒に目指し、下記の事項について決議します。

記

- 一、行政（自立支援協議会等）と積極的に関わりを持ち、情報を共有することにより障害福祉の充実に努めます。
- 一、障害の状態にかかわらず希望する場所で安心して暮らせるよう日中支援型グループホームの整備を進めます。
- 一、強度行動障害や医療的ケアが必要な人の地域生活を支える仕組みを確立し、適切な人員配置が可能となる報酬制度への改善を求めます。
- 一、災害時・緊急時・親亡き後も本人が安心・安全に暮らしているよう、福祉・医療・教育・警察・地域等の社会資源の連携のもとに、本人を中心に据えた個別の支援ネットワークを形成します。
- 一、障害があっても意欲的に働き、生活できる賃金が得られるよう、障害特性に応じて本人の能力を生かせる就労の場を創出するため、企業団体等への更なる働きかけに努めます。
- 一、本人の生きる力を高めるため、障害の有無にかかわらず共に生きる社会の実現に向けて個別支援、教育、福祉の充実とインクルーシブ教育の推進を求めます。
- 一、ライフステージに応じて切れ目ない適切な支援が得られるよう、サポートフアイルへの記入を促し、関係機関で活用されるよう働きかけに努めます。
- 一、出前講座や会報等を通して障害者理解をさらに促進し、いじめや差別や偏見をなくするための活動を続けます。
- 一、本人の意思が尊重されるよう意思決定支援を学び、意思決定を支援します。幅広い知識と経験を蓄積した相談支援事業者を利用し、生活の質を向上することができるよう努めます。
- 一、はつらつ大会で決議されたことを真剣に受け止め、実行できるよう支援します。

以上
決議します

令和7年11月30日

第50回広島県知的障害者福祉大会 三原・竹原大会 参加者一同

第23回はつらつ大会（本人大会）（三原市・竹原大会）大会決議

私たちは、それぞれの地域で仲間をつくり、つながりあい、力を合わせて色々なことを学び、働き、安心して豊かに暮らしていけるように努力していきます。また、障害のあるなしにかかわらず、思いやりとやさしい心で一緒に生活できる社会を目指して、次のことを決議します。

- 1 私たちに関係のある情報は、私たちにもわかりやすく教えてください。
 - 2 必要とする福祉サービス（移動支援など）は、住む町や障害の程度に関係なく制限を設けず、平等に利用できるようにしてください。
 - 3 私たちは、働くことで社会参加を進めていきたいと思えます。働く場所と働きやすい職場環境を作ってください。
 - 4 自分たちでできることは、自分たちで努力します。できないことがあるときや悩んでいるときは、身近に相談できる人や場所を増やしてください。
 - 5 いじめ、差別、虐待のない、安心して生活できる社会にしたいと思います。
 - 6 家賃が上がっています。家賃補助をもっと増やしてください。また、一人暮らしをしている障害者にも家賃補助を適用してください。
 - 7 グループホームとショートステイを増やしてください。行動障害や重い知的障害のある人のグループホームが特に足りません。将来、親が亡くなったあと、困らないように考えてください。
 - 8 障害者手帳（療育手帳）を持っている全ての人が障害基礎年金を受給でき、医療費が全額免除になる仕組みを作ってください。
 - 9 障害のある人のために、生活・福祉の知識などを学ぶ機会を増やしてください。
 - 10 鉄道割引を、距離に関係なくできるようにしてください。
 - 11 より多くの障害のある人が、選挙に参加できることを望みます。そのために、投票のやり方や候補者の考え方を、わかりやすく教えてください。
 - 12 障害のある人たちが災害や地震などにあったときのために、わかりやすい防災マップ、標識、表示などの情報と対策方法を教えてください。
 - 13 本人活動は、とても大切です。チャレンジ精神を忘れないで本人活動を広め、活発にしていきます。本人活動をもっと応援し、支援者を増やしてください。
- 私たちの願いが、多くの人に伝わり、実現できることを信じて・・・以上、決議します。

令和7年11月30日 第23回はつらつ大会（本人大会） 三原・竹原大会 参加者一同

会長表彰を受けて

三原市手をつなぐ育成会 須賀 貞徳

第50回広島県知的障害者福祉大会三原・竹原大会に於いて、光栄にも会長表彰をいただきました。再活動開始から3年目の三原市手をつなぐ育成会で、大会が無事開催できましたこと、感謝申し上げます。

私事ですが、振り返れば次男（45才）が発病したのが1才の頃。度々の入院で全快は難しく、障害を意識せざるをえなくなった頃、我が子の命を守るにはどうしたらいいか考えました。そしてそれは、周りの人に知ってもら

眺めが良かったステージの上

呉市手をつなぐ育成会本人部会呉うたう会 石井 克行

呉市手をつなぐ育成会本人部会の仲間と広島県知的障害者福祉大会三原・竹原大会・はつらつ大会へ参加しました。

会場に入ると、バスが遅れてまだ到着していない人がいました。そのため、僕は、ステージの上で表彰状を受け取るようになりました。突然の話でドキドキしましたが、リハーサルで須賀さんに優しく教えてもらい、上手くなりました。本番はドキドキせずできました。ステージの上からは、広い客席が見えました。眺めが良かったです。

表彰状と記念品をもらい、写真を撮ってもらいました。後日記念品を本人部会の皆に見てもらいました。記念品の写真たてに何を入れようか、今考えています。

これからがんばります。



表彰を受けられた須賀さん・石井さん

表彰された方 ～おめでとうございます～

第10回全国手をつなぐ育成会連合会 東京大会 会長表彰

田中 洋子 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

第13回手をつなぐ育成会中国・四国大会 島根大会 会長表彰

ボランティアサークルてく・てく 社会福祉法人くさのみ福祉会くさのみ作業所

水戸 静真 広島県手をつなぐ育成会監事

山名 朋子 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会前事務局次長

第50回広島県知的障害者福祉大会 三原・竹原大会 会長表彰

杉上 功 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会広島フレンドの会

石井 克行 呉市手をつなぐ育成会本人部会うたう会

花藤 真希子 安芸高田手をつなぐ連合会本人部会たんぼの会

西岡 翼 安芸高田手をつなぐ連合会本人部会たんぼの会

尾形 由基 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

川尻 七美 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

岡部 貞恵 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

吉田 恵子 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

須賀 貞徳 三原市手をつなぐ育成会

三上 タエ子 安芸高田手をつなぐ連合会

石井 久士 社会福祉法人太田川学園第3成人部保護者会

町尻 寛子 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

古江 由紀枝 呉市手をつなぐ育成会

神崎 文子 呉市手をつなぐ育成会

呉南カークラブ 呉市手をつなぐ育成会

中村 和恵 社会福祉法人たんぼ

(敬称略)

ことだと。当時支援学級もなかった地域の小・中・高校に通学し、たくさんの人たちと出会いました。加えて家族5人で廃校利用の宿泊や自然体験を毎年恒例にして楽しみました。「豊かな経験を」と、出会った先生に教えられたことが、我々のライフスタイルに合って、家族の絆がより深まったと自負しております。思いおこせば、いつもどこかで導き、支え、協力してくださった人との出会いの賜物と感謝です。

今後は、私も楽しみながら、後進の皆さんの力添えが少しでもできるならばと、気持ちを新たにしております。

この度は、ありがとうございました。

第10回全国手をつなぐ育成会全国大会東京大会に参加して

神辺育成会 長尾 智美

1日目は、第5分科会に参加しました。テーマは「育成会活動」です。「育成会活動の現状と新時代」みんなが元気になる秘訣」と題し、前半は、「現在・未来の親の会の活動」について、全国手をつなぐ育成会連合会会長の佐々木桃子氏と国立のぞみの園の田中理事長の対談から始まりました。これまでも、ともに生きる社会を目指すことを命題として地域での育成会活動が展開されてきましたが、時代とともに育成会活動の実情が変化してきています。この時代を生きる私たちが未来の子どもたちのことも含めて、活動をつなげることの必要性を一人一人真剣に考え、歩みを進める努力が求められているのだと感じました。



佳子内親王のご臨席を賜りました

後半は、それぞれの地域の会からシンポジストたちが、「地域の特徴」「親の会の役割」「会員減少への対応」「課題と展望」等を盛り込んだ魅力的な活動報告等を発表し、それを受け佐々木会長が、これからはご本人の時代、本人たちを盛り上げる。そのお手伝いを一緒に考えてやってほしいと言われました。自分の子どもだけではなく、皆のことに目を向ける。誰かのために活動できるということ。親である我々が地域に向かつて、自分たちの子どもの人権を大事に護っていく活動を継続して行うことを提言されました。

親の会の柱は、理解・啓発と権利擁護です。原点を忘れず関係諸機関と信頼関係を構築しながら、育成会活動の発展につながるような動きをつくっていききたいと思いました。

私と家族の初体験

廿日市市手をつなぐ育成会 新谷 ゆみこ

第1分科会の幼児期・学童期「インクルーシブ教育」で、日々の生活の中で感じていること、西日本豪雨災害で引越したこと、コロナ禍のこと、そして廿日市で知的障害理解・啓発活動をしていることを発表しました。

打診があった時は悩みました。障害のある次男は不安が強くイレギュラーが苦手な気が持ちは崩れると色々な所に影響があるので、松江市に自分一人か家族全員で行くか……。でも私の中で、色んな方に知ってもらいたい

すまいる大会



第1分科会「働く・楽しむ・暮らす」について発表 安芸高田たんぽぽの会清水さん・因島ピースの会寒林さん



体験コーナー 神楽面作り

たい」という気持ちと、インクルーシブについて避けていた部分もあるのではという思いがありました。次男との外出や外食は大変で、他の人に迷惑をかける、悲惨な目に遭う、兄妹たちには我慢させて外出を途中で中止するなど色んなことがありました。しかし今回、県育成会の方のアドバイスや励ましもあり挑戦を決意しました。

それからは、家族全員で外食に挑戦し、回を重ねるごとに次男もお店で食べられるように。

大会当日は、家族全員で初の宿泊を伴う外出。分科会の間は、家族や

次男とは離れ離れ、これも初めての経験でした。終了後、次男は私を見た途端大荒れでしたが、今回のことがなければ母と離れたり宿泊したりもなかったと思うので良い経験になりました。兄妹も家族全員で出かけて喜んでいました。

参加して感じたのは、インクルーシブ教育は周囲の環境や理解だけでなく本人や家族も主体となり「インクルーシブ」という言葉を使わなくても互いを尊重するのは当たり前の社会になったらよいということです。また、私の声にも耳を傾けてくださる皆さんの温かさと同時に感じました。



すまいる大会に参加した広島県内の仲間たち

第2回安心して暮らせる地域づくり研究会に参加して

広島市手をつなぐ育成会安佐北区支部 小川 優子

障害のある人が、安心して地域で暮らすためにはどのような地域支援体制づくりがあればいいのか？という内容に興味があり研究会に参加しました。

第1部座談会では、3人の講師の方のそれぞれのお立場からのいろいろなお話をお聴きしました。グループホームの制度の歴史など知らなかったこともあり勉強になりました。

第2部はグループワークでした。テーマごと(①暮らし②医療③地域連携④成年後見⑤その他)に分かれて話し合いをしました。私は③地域連携のグループに参加しました。

このグループでは地域生活支援拠点等などの話が出ましたが、広島県内でも市町が違々と取組の内容が違っていること、同じ広島市でも各区での地域特性が違うので進め方が違っていることなどがわかり、いろいろと参考になりました。グループワークでは時間が足りないと感じるくらい話が尽きませんでした。

また、研究会の中のお話で、以前から広島県はセルフプランの人が多いといわれていますが、セルフプランの人への支援が難しいこと、そもそも相談支援員が足りない

い実態があり、それをちゃんと見える化した実態調査をする必要があるというお話が印象に残りました。困っている人がいることを口だけでなく、目で見えるようにする。アンケートなどで実態を把握して具体的に行政などに伝えていくことも必要なのではというお話に、漠然と困っているというより、何に困っているかを把握してきちんと伝えていくことの大切さを感じました。そしてチームや関係者同士で連携することなどの大切さも改めて実感しました。また機会があれば参加したいと思いました。



令和7年度育成会活性化事業研修会から学んだこと

広島県手をつなぐ育成会副会長 柏田 潤子



8月2日、

国立重度知的障害者総合施設のぞみの園理事の古川慎

治様より、「障害者の暮らしと支援」〜強度行動障害と高齢化・重度化を中心にご講演をいただきました。厚生労働省に令和4年10月4日に設置された「強度行動障害を有する者の地域支援に関する検討会」全8回をウェブ上で拝聴させていただき、古川様のご意見や思いは存じ上げておりましたが、その造詣の深さに改めて感銘を受けました。

本人がつぶれないように抱え込まず、相談支援や作業所、行政にも関わっていただく重要性。託せる仕組みを考える中で、不安やプレッシャーもあるかもしれないが「本人との今を楽しんでほしい」と、心を軽くし背中も押していたいただきました。エンディングノートは、息子は何が好きで何が嫌なのか：どのような人間なのか。「支援者が迷った時、親の気持ちの後押しをする」と言ってくださり支援者さんに息子の未来を託すべく、書き残すモチベーションに繋がりました。一番心に残ったご教授は、「ご家族の方は、本人に

愛情と楽しい思い出という記憶の財産を残してあげてください。」と言われたことです。例えば、施設の職員さんが旅行等いくら楽しい行事を行っても、やはり本人さんは昔の家族旅行の写真を楽しくそうに眺めておられるそうです。日々の思い出作りは、私にしかできないことであり、息子にとつてそれはとても大切なことなのだと大変心に響きました。楽しみながら「今やれることは、今やる」を実行していきたいと思いました。



地域育成会支部の活動紹介

広島県手をつなぐ育成会には、「地域育成会支部（23支部）」と「施設保護者会支部（52支部）」があります。各支部では、各地域の実情に合わせた様々な取組を行っています。各支部の取組を紹介します。

気持ちの繋がりが持てました

いつかいちむぎの家作業所 代表 筒井 宏子

令和7年4月21日（月）佐伯区地域福祉センターにて、いつかいちむぎの家作業所の保護者を対象とした「なんでも相談会&おしゃべり会」を開催しました。



講師として、広島県手をつなぐ育成会副会長の柏田潤子さんに来ていただきました。

まず、二つのグループに分かれて自己紹介や困りごとなどを話し合い、柏田さんからそれぞれの質問にお答えいただきました。他の方の困りごとが自分に通ずるものがあり、改めて気づくことができました。知らなかった制度のことや将来に向けて何を準備したらいいのかなど、貴重なアドバイスをたくさんいただきました。また、改めて保護者同士で困りごとを共有することで、より気持ちが繋がった感じがして良かったです。

「なんでも相談会&おしゃべり会」を企画していただきありがとうございました。

学習会&おしゃべり相談会

北部手をつなぐ育成会ゆるるん会長 伊藤 ゆかり

令和7年10月5日（日）午後「学習会&おしゃべり相談会」を行いました。長年知的障害者相談員をされている3名の講師に来ていただき、中身の濃い2時間半となりました。

学習会では、①県育成会の柏田副会長から、「自閉症などの障害の名称が変わった事で、何が変わったのか」最新の知識を学ぶ。②県育成会の中尾常務から、「卒業して数年の子どもの様子の変化を感じとり、課題にぶつかった時にどう対応するのがよいか」を学ぶ。③ままつ子クラブの新年代表から、居場所づくりとして令和7年4月に立ち上げられた「社団法人ゆうみん」の経緯や内容など、3名の方にお話をいただきました。

おしゃべり相談会では、参加保護者9名が相談員のいる三つのグループに分かれて、じっくり話をしてもらったり聞いたり、少人数ならではの打ち解けた場となりました。皆さんいい表情になられて、帰路につかれました。

新たな会員の加入！

廿日市市手をつなぐ育成会・未来十会議代表 中澤 恵美子

廿日市市手をつなぐ育成会の若手グループで作る「未来十会議」で、1月12日（月祝）におしゃべり会・相談会を開催しました。「知的障害者の暮らしとは…」というテーマで、まずは「道草」という映画を鑑賞しました。その後、金子会長から「行動障害のある方の暮らしを考えよう」という演題でお話をいただきました。最後は、グループワーク。5～6名のグループに分かれて、日ごろの悩みや将来について、様々な話をすることができました。

開催決定から当日までの日にちが少なかったのですが、当日は育成会会員以外の当事者ご家族、学校関係者や社協、ヘルパーさんなど支援者の方々など28名の参加があり、「小さな努力の積み重ねがいつか大きな力になると信じたいと思った」、「ヘルパーさんとの信頼関係の大切さ、外出することの効果を感じた」等の感想をいただきました。

今回の参加者から、新たに育成会に加入していただけた方もおり、今後も活動を続けていきたいと思っています。



本人の思いに寄り添い、安心して参加できる温かい支部活動を目指して

おおの手をつなぐ育成会会長 叶井 美智子

この度、おおの手をつなぐ育成会会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

私たちの会は、規模が小さく、会員の高齢化もあり活発な活動はしていませんが、知的障がいのある子どもを持つ親の一人として、長い年月、喜びや悩み、不安と向かい合いながら共に歩んできました。今、私たちの子どもたちも高齢となり、地域の中でそれぞれの生活を大切にしながら暮らしています。言葉で十分に表せなくても「安心して暮らしたい」「地域の一員として認められたい」という思いを日々の姿から感じています。

これからも、親や家族、そして地域の皆様とつながりながら本人の思いに寄り添い、安心して参加できる温かい支部活動を進めていきたいと考えています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ボウリンピックinはつかいち開催

12月6日(土)、広島市佐伯区にあるミスズボウルにて、「2025ボウリンピックinはつかいち」を開催しました。18団体220名(選手134名、支援者・役員等86名)の参加があり、熱気あふれるゲーム展開に一喜一憂する姿が見られました。



たくさんの人が参加してくれました



飛び賞のメダル授与おめでとうございます



宣誓！私達選手一同は明るく楽しくプレイして
一人一人のベストスコアを目指すことを誓います！



午後・男子の部受賞者全員集合

2025ボウリンピックに参加して

有田 朝陽

初めてボウリング大会に参加して、本当は優勝したかったんですけど。惜しくも3位でした。それでも自分は相当満足でした。

広島県知的障害者相談員研修会に参加して

福山市知的障害者相談員 東谷 京子



9月24日に育成会総合福祉センターで開催された「広島県知的障害者相談員研修会」に参加しました。この研修会に福山から参加するのは3回目になります。今回は、「上手な聞き方・人の悩みの適切な聞き方」と題して、講師のコンサルテーションサポート森の入り口代表金丸博一さんのお話から始まりました。

相談を聞くときは、インタビューするように話を聞くこと、繰り返し聞き続けること、また、話をする時には、否定的な言葉は言わない、聞く姿勢を大切にするとともに感情と事実を切り分け、整理することが大切だとお話してくださいました。

午後のグループワークでは、相談員が持ち寄った各地域での事例検討や情報交換をしました。相談員として登録しているが、相談が殆どないと言われた方もいらっしゃいました。私の周りでも、知的障害者相談員をご存じない方や育成会に関わって初めて知った方もおられました。

相談員だけでは、問題の解決にはならないこともあります。皆さんに知ってもらうことが大切です。



あびブートキャンプ

広島市手をつなぐ育成会 あび隊事務局 善川 夏美

2012年（平成24年）に始まった「あび隊」も10年目を迎えた頃、あび隊員から「高齢化が不安」との声があがり2023年（令和5年）10月にあび隊の研修会を兼ねて、新隊員募集のための研修会「あびブートキャンプ」を全2回で開催することになりました。最初は広島市の方向けでしたが、呉や廿日市からも加えて24名の方が参加してくださいました。2024年（令和6年）からは、広島県手をつなぐ育成会の行事として、広く県内外にも声をかけ1日で学べる「あびブートキャンプ」を開催しています。その間に呉では「ぼこぼこ隊」、福山では「びんご隊」、廿

日市では「廿日市あび隊」などの活動も始まりました。広島市では、「あびブートキャンプ」に参加された多くの方がデビューされて、今では小学生や中学生のお母さんがあび隊員として活躍しています。中には各グループ（区）での取り組みもあつめてしまっている隊員も出てきました。



令和8年6月にはあび隊初出勤から15年目になりました。当時40代だった隊員も60代になり、そろそろ小学生は孫世代になつてきましたので、より同世代の子どもを持つお母さんたちに活動を引き

継いでいけたらと思っています。

あび隊 テキスト

あなたも今日から啓発隊員 第2号



広島県内でも「やってみよう」と思われる方がいらつしやいましたら、令和8年度も開催予定です。ぜひ参加してみてください。キャラバン隊は、1人でもできるメニューがありますので、まずはどんなものなのかを知ってください。

知的障がい理解啓発活動「びんご隊」

福山手をつなぐ育成会理事長 榎本 里子

「びんご隊」は、福山手をつなぐ育成会と神辺育成会が一緒に活動しています。現在の隊員人数は合わせて9名です。令和7年度は、9月12日（金）あいサポート研修（三原会場）に出動し、会場10名、オンライン16名の参加がありました。10月8日（水）の広島県東部建設事務所での職員研修では、約40名の参加がありました。



どちらも緊張の中で始まった研修でしたが、「ばら王国」でなごやかにになり、保護者の話、グループワーク（職員研修）と進むうちに活発な意見交換となりました。参加者の感想は、「びんご隊の発表は、とてもわかりやすかった。」「仕事の流れや仕方を具体的に伝えるということが理解できた。」「声掛けの仕方や伝え方の工夫を考えていきたい。」「保護者の話が聞けて良かった。」等でした。

「びんご隊」に加わることで私たちも元気になる気がします。今後とも、新しい隊員の加入と出勤回数が増えるように地域や各学校への広報を頑張りたいと思います。

条例制定イベントへの参加

広島市手をつなぐ育成会 中尾 美恵

この度、「広島県障害者による情報の取得及び利用並びに意志疎通に係る施策の推進に関する条例」及び「広島県手話言語条例」が制定されました（令和7年11月1日施行）。障害者が、必要とする情報を十分に取得しその情報を基に意志決定や意見を表明することや、円滑に意志疎通が図られることを促進するものです。

それを記念して、昨年12月23日に紙屋町シヤレオ中央地下広場にて「障害者コミュニケーション」が開催されました。

様々な障害者7団体が、展示ブースを設け、ステージにて、それぞれの障害者理解をアピールされました。



当会金子麻由美会長は、知的障害児者に情報が伝わらない時は、イラストや写真、タブレット等、本人の分かりやすいツールで伝えてほしいと説明されました。手話ダンスやふれ愛ブラザの販売もあり、障害者理解に繋がる良い機会となりました。

これからも、障害者理解に努めていただくことは勿論のこと、この条例の内容について、詳しく分かりやすく周知してもらいたいと感じました。

令和7年度はつらつ友の会活動報告

はつらつ大会 はつらつ大会参加者数 239人（支援者含む）

令和7年11月30日（日）



会場に設置した「はつらつ友の会」の活動紹介パネル。見ていただけましたか？



会場視察・立ち位置など、当日の動きも考えました



大会前に集まって決議文発表の練習をしました



分科会①「学習」午前「行政との話し合い」



分科会①「学習」午後「グループワーク」



分科会②「エンジョイ」やっさ踊り体験



分科会③「バス観光」竹原まちなみ観光&交流会

本人による本人のための相談会 & 交流会

令和8年2月1日（日）

参加者63名（本人）・支援者他29名・計92名

準備から運営まで、できるだけはつらつ友の会代表者でやろうということで、事前準備から会場設営、司会進行、弁当配付、そして交流会のクイズの問題を考えるなど、たくさんの仕事を頑張りました。当日の受付は、広島フレンドの会に担当いただきました。



事前に集まって景品などを準備



当日・司会、挨拶



相談会の助言者



弁当配付



全員集合！楽しかったね

【助言者・金丸博一様感想】

本日は、和気あいあいと交流ができて、天国のような雰囲気でした。皆さんの発言などを見ていると、未来は発展的だと感じました。

【役員感想】

- 悩みがある時は、色々な人に相談すればいいことがわかった。
- 役員は忙しかったけど、とても楽しかった。 ●又村さんの話と相談会はとてもとてもよかった。
- ×クイズは、地元の人が間違えるような難しく絶妙な問題だった。

令和8年度に向けて

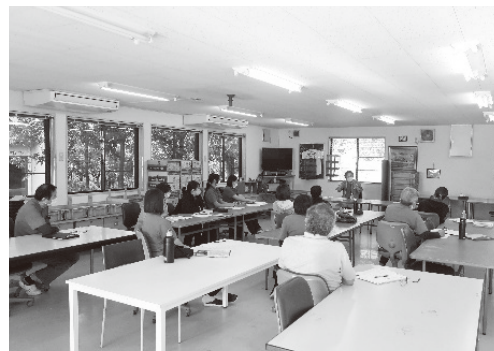
広島県障害者福祉事業所協議会会長 春木 強



まず令和7年度の事業として、安佐北区にある多機能型事業所ふたつかの里（就労継続支援B型・生活介護）においてスーパーバイズを開催しました。

講師の賀茂精神医療センター元山淳氏による的確なアドバイスや指導を受けることができました。

事業所見学は「因島であいの家」を訪問し、広島県手をつなぐ育成会顧問副島宏克氏と法人職員による地域社会での取組、経営戦略、育成会活動の実践について貴重なお話を伺いました。これは令和6年度職員研修において「私の歩んだ事業所人生」の演題で講演いただき、その第2弾として、実際に法人に伺い、その実践を見てみたいという強い要望があったからです。



スーパーバイズinふたつかの里

きらきらフェアも3回目を迎え、おそろいのTシャツで会場に一体感が生まれ、ステージ発表も充実し、販売活等も最高の収益を上げることができました。

7月に開催した総会の後、森木聡人氏による職員研修「虐待防止研修」を実施し、いかに支援の質を高めるかを学び、虐待の芽を早期に摘み取ることの大事さを学びました。その後、会場をエールエール屋上ビアガーデンに移しての情報交換会は、大いに飲み、語り合い、親睦を深めることができました。

加えて新たな取組として、24時間テレビ48（広島テレビ）での販売活動を行うことができました。



きらきらフェア

京大会では、事業所協議会を代表して高田副会長、三上幹事、事務局より中尾常務理事、郡司事務局員が参加し、東京大会で得た学びや気づきを令和8年度開催の広島大会に活かして行きたいと思います。

令和7年度は、加盟事業所の結束の強化だけではなく、加盟事業所増加にも力を入れた結果、就労継続支援B型事業所「作業所わくわく」、「ハレソーシャルハウス」、重症児放課後等デイサービス「バナートル」、「銀の匙ちよだ」の4事業所が加盟しました。また1事業所が加盟を検討中です。しかし、残念ながら2事業所が閉所を検討中であります。地道に有意義な活動を行って



研修会

きても経営力が無ければならないと痛感しています。事業所協議会加盟事業所は小規模な事業所ばかりですが、皆が連携し経営力向上への取組を推し進めていかなければなりません。

令和8年度開催される事業所協議会全国研修大会広島大会第2分科会において事業所協議会の取組を報告しますので、ぜひともご参加いただければと願っております。



24時間テレビ48 販売活動

反省すべき点として、若手・管理者部会を開催することができませんでした。場所・開催方法等を検討し、令和8年度からは活動を活性化していきます。

このように令和8年度に向けて、事業所間で活発な意見交換や有意義な活動を行い、全国研修大会広島大会が事業所協議会活性化の起爆剤になり、事業所の活性化、さらに事業所間の連携強化に向けての活動を行っていきたいと思っております。皆様、どうかご協力お願いいたします。

令和8年度全国手をつなぐ事業所協議会全国研修大会

広島大会

思いをつなぐ
…未来の君へ
行こう広島へ

～夢をかなえる魅力のある事業所を目指して～

令和8年9月19日(土)
合人社ウエンティひと・まちプラザ
(広島市まちづくり市民交流プラザ)

主催 全国手をつなぐ事業所協議会
主幹 全国手をつなぐ事業所協議会中国・四国ブロック
広島県障害者福祉事業所協議会
共催 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
一般社団法人広島県手をつなぐ育成会

令和8年度事業所協議会全国大会チラシ

広島県手をつなぐ育成会「互助制度」（保険制度）からのお知らせ

【互助制度保険料の値上げについて】

令和8年4月より、互助制度保険料を改定することとなりました。

互助制度保険料は、育成会保険料(入院に関わる保険)とAIG損保保険料(ケガの補償・他人への損害賠償)から成っています。互助制度保険料については、平成26年度に現行の制度が始まってから、11年間据え置いてきました。この間、2度のAIG損保保険料の値上げがありましたが、育成会の保険料を減額し、加入者様からいただく互助制度保険料は、変更せずに運営してまいりました。

しかし、令和8年4月より、AIG損保保険料が再度値上げとなります。また、諸物価の高騰により、互助制度の運営経費も上昇しており現行の保険料で運営していくことが困難な状況となります。

互助制度運営員会・育成会三役会等で協議を重ねた結果、次のとおり互助制度保険料を改定いたします。今後も皆様方に安心をお届けできるよう努めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

互助制度保険料	Aプラン	12,000円(旧)	→	13,200円(新)
	Bプラン	18,000円(旧)	→	19,800円(新)

【「互助制度」と「生活サポート総合補償制度」について】

令和7年度より互助制度の個人賠償責任補償の審査基準が厳格になり、保護者（加入者）と障害者本人（被保険者）が離れて生活している場合、保険が適用されない場合があります。このようなケースをカバーするため、生活サポート総合補償制度を導入いたしました。特に施設入所者、グループホーム利用者等で個人賠償責任補償（他人へケガをさせる、物を壊す）が心配の方は、生活サポート総合補償制度への変更をご検討ください。保護者と障害者本人が一緒に生活されている方は、互助制度で今までと同じ補償が受けられます。

詳しくは、各支部の互助制度担当者、または、広島県手をつなぐ育成会互助制度担当者（宝田）まで、お気軽にお問い合わせください。

令和8年度の行事予定

令和8年度の行事は以下の予定になっています。

未定の行事につきましては、決まり次第各支部にお知らせいたします。

多くの皆様にご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年3月22日（日）	10:00～	理事会
	13:00～	臨時総会
5月16日（土）	13:00～	理事会
5月31日（日）	13:00～	総会・懇談会
7月4日（土）		広島県障害者福祉事業所協議会 きらきらフェア
7月11日（土）		広島県障害者福祉事業所協議会 総会・研修会
9月19日（土）		全国手をつなぐ事業所協議会全国研修大会広島大会
10月4日（日）		第51回広島県知的障害者福祉大会 福山大会 第24回はつらつ大会（本人大会） 福山大会
11月1日（日）		第11回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会（神戸大会）
11月14日（土）～15日（日）		第14回手をつなぐ育成会中国・四国大会（徳島大会） 第14回手をつなぐ育成会すまいる大会（徳島大会）

（日程未定）

7月頃	安心して暮らせる地域づくり研究会
12月頃	第31回広島県知的障害者スポーツ大会（ボウリング） 「2026ボウリンピックinひがしひろしま」（賀茂ボウル）
1月頃	はつらつ友の会主催「本人による本人のための相談会&交流会」

